養育院の思い出　2
米軍の進駐

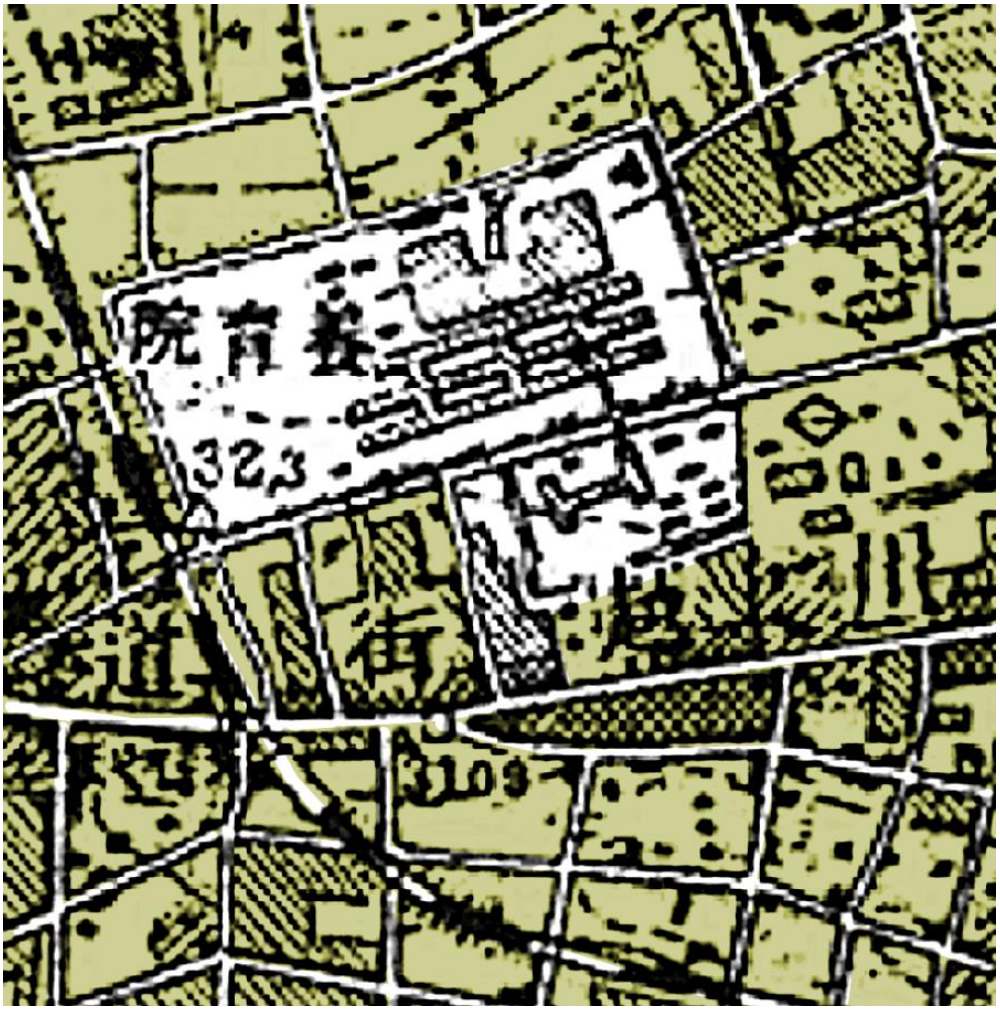
櫻園通信 42.　平成 29 年 4 月
東京都健康長寿医療センター
養育院・渋沢記念コーナー
連絡先：老年学情報センター

久保田嘉一郎　養育院・渋沢記念コーナー維持ボランティア

養育院の広場で初めてダンプ・トラックを見た

昭和二十年九月に米軍の進駐が始まりました。わが家は川越街道に面していましたから、米軍の動きが分かりました。米軍の進駐先は朝霞の広大な陸軍予科士官学校跡地と決めて、兵士、車輌、戦車などの移動に川越街道を使いました。夜中に戦車がごうごうと移動するのを寝床で聞きました。基地は「キャンプ・ドレイク」と名付けられました。現在の光が丘公園（練馬区）のあるところは「グランド・ハイツ」と名付けられて米軍将校用の宿舎となりました。

昭和二一年春になると米軍は板橋区、北区にある陸軍造兵廠などの武器、兵器、弾丸などの軍需品の処分を始めました。私が目撃したのは養育院の広場です。当時の養育院は私の記憶によれば、かなり変わっています。



現在、健康長寿医療センターの正門前は片側二車線の大きな通りですが、当時は違いました。東上線踏切から板一中横を通って板橋区役所への道は千川上水を暗渠化してできた道でした。渋沢栄一像も板一中の近くにありました。当時の養育院への車の出入りは旧川越街道から今の板橋文化会館の前を通っていました。

処分の様子を私は三歳上の兄に連れられて見に行きました。米軍のトラックが兵器や軍需品を運んで来て、荷台を傾けると荷物がザァーと地面に落ちました。初めてダンプ・トラックを見ました。周りの人々も皆ビックリしていまし

た。アメリカは凄いものを持っているなぁーと見ていた人たちは目を見張りました。見張り役は米軍のＭＰ（憲兵）二人が銃を持ってガードしていました。大人が近づくと銃で制止されたが、子供には甘かったです。

どんな物を処分していたのか？軍関係の雑多な物を処分していました。歩兵銃、銃剣、火薬のない大砲の弾丸、機関銃の弾、通信機などです。ある程度溜まるとガソリンかけて火をつけて燃やして処分して、次の荷物を迎える。

兄と私は連日、見物に行きました。ＭＰの隙を見て、一人の子供が荷物に近づき、物を取ってきました。その成功を見て、子供たちは荷物に近づき、それぞれ物を盗みました。私たち兄弟もそれに倣い、いろいろな物を盗みました。米兵の警戒が厳重になる前まで続きました。〝戦利品〟としては、銃剣二振り、大砲の砲弾数個、弾丸ケース（鉄製）、通信機、屈折双眼鏡（偵察の時に使う）などがありました。

そんな中に厳重に梱包された木の箱がありました。大きさはミカン箱位の大きさでした。それを兄と協力して、家に持ち帰りました。父親がバールで開けて見たら、中にはぎっしり包帯とガーゼが詰まっていました。食料を期待していましたのに、ガッカリしました。

三八式歩兵銃も沢山焼却されました。木製の銃架は焼けますけれど、銃身は残ります。やがてその焼けた銃身を地面に差し、鉄条網をぐるぐる巻いて子供たちが近づけないようになりました。

〝戦利品〟のその後について話します。工場の隅に隠していましたが、昭和二五年六月に朝鮮戦争が勃発して、世の中が変わりました。占領軍司令官のマッカーサー元帥の指令に基づき警察予備隊を創設しました。日本は朝鮮戦争で戦う国連軍の補給基地になりました。戦後復興を目指す日本にとっては追い風になりました。「かねへん景気」、「いとへん景気」と呼ばれました。「かねへん景気」とは、金属関係の会社が景気が好くなり、「いとへん景気」とは、繊維産業の会社の景気が好くなることです。

街には「くず鉄屋」が存在して、金属類を目方で買ってくれました。当然、鉄より銅や真鍮は高く買ってくれました。鉄を高く買ってくれるぞという噂が広まり、兄と相談して屑鉄屋に持って行き、全部売ってしまいました。

台座から降ろされた渋沢栄一銅像

敗戦後全国に、米軍を中心とした連合軍が進駐した。板橋の養育院は明々寮などの一部のみが使用可能で、急遽焼け残っていた練馬の兵舎をも使用し、昭和 22 年には延べ 4,402 人の収容者を抱えていた。焼け跡の広場は、近辺の軍需工場などの武器の処分場の役割を果たした。米軍のダンプ・トラックが旧軍の銃などの兵器を次々と運び込み、子供の目には機械化された米軍の様子が新鮮に見えたようである。

渋沢銅像は、昭和 19 年に金属回収のために地上に降ろされ、「渋沢栄一の応召」として、写真入で新聞報道されている。しかし降ろされた巨像は、運搬条件の厳しい中で、ボイラー横の防火壁の傍らに温存されていた。（櫻園通信 20 号）。別の住人の話であるが台の上には焼け焦げのコンクリート像があり、地上には降ろされて供出を待っていた銅像があった。子供心にどうして 2 つも似たものがあるのかと不思議に思ったそうである。戦後養育院はこの跡地での再建を望んだが、板橋区は養育院を追い出して、区の施設を建てる計画を立て，両者の激しい論争が繰り返された。

（センター顧問医　稲松孝思）